

第3学年 音楽科学習指導案

1 題 材 名 せんりつの感じを生かしてふこう

2 題材の目標

- (1) 「レッツゴー ソーレー」の曲想とリズムや速度、音の重なりと関わりに気付くとともに、互いの音を聴きながら自分の思いに合った表現をするために必要な演奏の技能を身に付ける。
- (2) 「レッツゴー ソーレー」の音の重なりや速度、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 旋律の雰囲気を生かしてリコーダーで表現することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習に取り組み、リコーダーに親しむ。

3 教材

「レッツゴー ソーレー」 橋本 龍雄 作曲

4 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく素直で、表情豊かに歌う児童が多く、音楽活動を好む児童が多い。3年生から始まったリコーダーの学習にも意欲的に励み、運指の定着を図ったり、息の強さに気を付けたりしながら演奏を楽しんでいる児童が多い。また、9月には5年生と音楽交流会「第1回音楽ミニコンサート」を行い、5年生の演奏を聴いたり、息づかいや正しい運指の仕方について直接教えてもらったりしたことで、児童は「5年生みたいな演奏がしたい!」とやる気に満ちあふれている。

また、9月から高いドとレの音に挑戦しているものの、運指が正しくできない時があるため、リコーダーの穴を意識できるような活動も行っているが、5音の曲になると難しく感じやすいため、それぞれに応じた個別最適な学びや協働的な学びの充実が必要だと考える。

(2) 教材について

「レッツゴー ソーレー」は、主旋律と副旋律がソラシドレの5音で構成された二重奏曲である。同じリズムを違う音で重ねたり、交互に1音ずつ演奏したりすることで音の重なり的美しさや、パートが関わり合うことの面白さを感じるのに適した教材である。丁寧なタンギングによるリズムを楽しみ、速度の違いによる曲想の変化を感じながら、しっかりと聴き合って演奏することをねらいとしている。

(3) 指導にあたって

本題材では、息をコントロールしながら、曲想に合った速度や演奏の仕方を考えて、表現していく。体を動かしながら範奏を聴いたり、リコーダーの階名唱をしたりすることで、曲の盛り上がりや拍節感を捉え、リズムにのって演奏することができるようにする。そして、イメージを膨らませるために話し合いを重ねて、それに合った演奏の工夫をしていく。

本時は、曲のイメージをもとに速度やリズムを意識し、正確な運指の定着をめざしながら演奏する。グループ活動の際には、教師の模範演奏動画をタブレットで見たり聴いたりすることで、分からない旋律を着実に演奏できるような支援をする。そして、5年生との「第2回音楽ミニコンサート」に向けて、さらに意欲を高めることができるようにしたい。さらに、学習のまとめでは、曲想を生かした演奏の工夫をしながら、音の重なりを感じて友達と合奏することの心地よさを味わうことができるよう支援したい。

5 本題材で取り扱う学習指導要領の内容

第3学年及び第4学年 A 表現（2）器楽 ア、イ（イ）、ウ（イ）

〔共通事項〕 （1）ア

（本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「リズム」、「速度」、「音の重なり」）

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音の重なりや速度、リズムとの関わりに気付いている。 技 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けている。	思 音の重なりや速度、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 旋律の雰囲気を生かしてリコーダーで表現することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準 ◆評価方法		
		知・技	思	態
	◎場面の様子をイメージして表現を工夫し、思いをもって演奏する。			
1	○表現したい曲のイメージをつかむ。 ・曲を鑑賞し、気付いたことやイメージを伝え合う。 ・階名唱をし、指使いを確認する。 ・グループとパートを決める。	↓ 知 ◆演奏聴取	↓ 思 ◆発言内容	↓ 態 ◆活動観察
2 (本時)	○曲のイメージに合うように、自分で演奏する。 ・自分が演奏したいグループに分かれて、何度も演奏する。 ・曲想に合った演奏の工夫を話し合う。	↓ 技 ◆演奏聴取	↓ 思 ◆活動観察	↓ 態 ◆演奏聴取
3	○イメージに合った表現の工夫を話し合い、音の重なりを感じて演奏する。 ・音楽の要素を意識しながら演奏する。 ・イメージに近い演奏になっているかを考え、タブレットで演奏を録画して確認する。	↓ 技 ◆演奏聴取	↓ 思 ◆活動観察	↓ 態 ◆演奏聴取
4	○グループごとに発表し、学習のまとめをする。 ・よいところを伝え合い、次の合奏曲への意欲を高める。	↓ 技 ◆演奏聴取	↓ 思 ◆活動観察	↓ 態 ◆演奏聴取

8 本時の学習

(1) 目 標 曲のイメージを膨らませ、曲の特徴を捉えて表現を工夫しながら演奏する。

(2) 展 開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1 既習曲を歌う。	○楽しく学習に取り組めるような雰囲気づくりをする。		
2 本時の学習問題を考える。	○前時を振り返り、本時の学習問題を確認する。		
曲のイメージに合うような えんそうをしよう。			
3 グループに分かれて、表現を工夫したいところを中心に演奏する。	○タブレットで教師の模範演奏を見たり、友達と演奏したり、教師と一緒に演奏したりしながら、自分のペースで演奏できるように支援する。 ○自分のパートのみの楽譜を見ながら演奏できるように、マイパート楽譜を用意する。 ○リズムの変化に着目しながら、タンギング、息づかいなどを意識できるように助言する。	◇思 ◆演奏聴取、活動観察、発言内容	リズム
4 本時の学習を振り返る。(ミライシード)	○自分のイメージに合った演奏になっているか、どうすれば表現できるようになるかを助言する。 ○次時では、グループでよりイメージに合った合奏ができるような演奏になるように意欲付けをする。		

(3) 評価および指導 (手立て)

<思考・判断・表現>

A (十分満足できる) と判断される具体的な状況	・曲想とリズムや速度、音の重なりに関わりに気づき、タンギングや息づかいに気を付けて、曲想に合うように表現を工夫している。
B (おおむね満足できる) 状況を実現するための具体的な指導 (手立て)	・イメージに合うようなタンギングができるように、「トゥ」の音で歌ってみるように助言する。 ・師範演奏に階名を入れたり、マイパート楽譜を準備したりして、演奏がしやすくなるような工夫をする。